Supporting Practices for

Para-Sports

企業 × 障害者スポーツ競技団体等による
障害者スポーツ振興の

取組事例集

Ver.4

公益社団法人
東京都障害者スポーツ協会

はじめに

当協会では、「いつでも　どこでも　いつまでも　～すすめます！スポーツをもっと身近に～」をスローガンに、障害の有無に関係なく誰もがスポーツを楽しむことができるよう障害者スポーツの普及・振興に取り組んでおります。2016年からは、企業・団体等の皆さまの障害者スポーツを応援したいという意向を支援につなげていく『障害者スポーツコンシェルジュ事業』を開始し、思いを形にする取組を進めております。本事業では相談窓口を設置し、障害者スポーツの支援に関心のある企業・団体等のご相談に対して、必要な情報を提供し、支援を必要としている競技団体等との連携に向けた調整を行っております。また2017年からは障害者スポーツへの支援を検討している企業と障害者スポーツ競技団体等の情報交換の場を作り、両者の連携を促進するための「企業×障害者スポーツ競技団体等の交流会（以下「交流会」）」を実施しております。

障害者スポーツを取り巻く環境はここ数年で大きく変動しました。世界最高峰の大会であるオリンピック・パラリンピックの自国開催が決定して以来、障害者スポーツに対する関心が飛躍的に高まった一方、新型コロナウイルス感染症の影響により社会経済活動が制限され、スポーツイベントの中止やスポーツ施設の閉鎖などスポーツ活動の機会が著しく減少しました。このような状況の中でも、スポーツ活動の機会を確保するためには、新たな参画機会の創出が必要であると感じています。

その一つとして、オンラインツールの活用はスポーツの新たな可能性を見出すに至りました。無観客開催でのライブ配信や非参集型のオンラインイベントは、遠隔地の人々の参加を可能にし、新しい出会いとつながりが生まれスポーツの輪が広がりました。このような新しいスポーツの楽しみ方が定着することにより、障害の垣根を越えてスポーツを楽しむ社会が進むことを期待しております。

本事例集は、障害者スポーツコンシェルジュ事業をきっかけにマッチングに至った事例や、企業が独自に行っている先進的な事例など、「ボランティア、雇用、協賛、講習・体験会、施設貸出、物品提供」といった多様なアプローチで障害者スポーツを支援する熱意ある取組を紹介しております。今回の改訂ではコロナ禍でありながら企業と競技団体が互いに歩み寄り前向きに取り組もうとする二つの事例を追加させていただき、Ver.4にアップデートいたしました。

本事例集が障害者スポーツへの関わりや支援を検討されている企業の皆さまにとりまして、今後の取組のきっかけとなれば幸いです。

末筆ながら、本事例集の制作にあたり、事例を紹介させていただくことに快くご協力いただいた企業、競技団体の皆様にお礼申し上げます。

2021年8月

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

目　次

はじめに　01

目次　02

障害者スポーツコンシェルジュ事業とは　03

障害者スポーツ基礎知識　04

取組事例集　05〜20

01 休館日の活用でパラアスリートを支援　05
野村不動産ライフ&スポーツ株式会社　×　東京ボッチャ協会

02 マラソン大会を通じてボランティア交流　06
プルデンシャル生命保険株式会社　×　社会福祉法人東京都社会福祉協議会

03 昇降式表彰台AwardLiftで、祝福の演出を　07
新東工業株式会社、株式会社メイキコウ　×　NPO法人日本パラ・パワーリフティング連盟

04 学内施設がパラリンピアンの練習拠点に　08
学校法人立教学院　×　一般社団法人日本パラ水泳連盟、一般社団法人日本知的障害者水泳連盟

05 月に一回定期的に体験会の場を提供　09
株式会社オフィス24　×　一般社団法人日本パラバレーボール協会

06 職員・子どもたちへの理解啓発　10
PwC Japanグループ　×　一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

07 東京2020大会に向けた機運醸成　11
学校法人藤村学園 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学　×　各障害者スポーツ競技団体

08 ボッチャを起点に広がる企業活動　12
株式会社CAC Holdings　×　一般社団法人日本ボッチャ協会

09 障害者スポーツの支援をきっかけに障害者支援事業を立ち上げ　13
堀江車輌電装株式会社　×　特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟

10 企業野球チームと障害者野球チームによる交流　14
株式会社ゼンコー　×　東京ブルーサンダース

11 地域での福祉教育を通じた競技の普及啓発　15
社会福祉法人荒川区社会福祉協議会　×　一般社団法人日本障がい者立位テニス協会

12 学生ボランティアを通じた大会運営支援　16
学校法人成蹊学園 成蹊大学　×　東京都グランドソフトボール連盟

13 地元(大田区)企業の技術力を活かした障害者スポーツ用具の開発　17
公益財団法人大田区産業振興協会　×　各種障害者スポーツ団体・アスリート

14 アプリを活用した練習機会の創出　18
ソフトバンク株式会社　×　特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会、全日本ろう者空手道連盟

15 パラリング〜VR動画を用いたパラスポーツ体験と障害者理解の促進〜　19
株式会社リクルート　×　各種パラスポーツ競技団体・アスリート

16 大会・練習会場における歩行誘導マットの活用　20
錦城護謨株式会社　×　一般社団法人日本ゴールボール協会　ほか

各ページのマークについて

- 障害者スポーツコンシェルジュ事業からのマッチング事例(2018)
- 障害者スポーツコンシェルジュ事業からのマッチング事例(2019)
- 障害者スポーツコンシェルジュ事業からのマッチング事例(2020)
- 障害者スポーツコンシェルジュ事業からのマッチング事例(2021)

支援の種類

- 施設貸出
- ボランティア
- 物品提供
- 協賛
- 体験会
- 理解啓発
- アスリート雇用
- 製品開発

障害者スポーツ
コンシェルジュ事業とは

障害者スポーツの支援に関心のある企業・団体等の相談に乗り、必要な情報の提供や支援を必要としている
競技団体等との連携に向けた調整を行っています。障害者スポーツの支援についてご検討の場合は、
障害者スポーツコンシェルジュにご連絡ください。

?? **障害者スポーツを支援したい。**
でも、何をしたらいいか分からない…

企業

障害者スポーツコンシェルジュ

障害者スポーツ大会の
観戦に行って、
応援してみませんか？

競技団体・大会運営の
支援をしてみませんか？

自社のスポーツ施設を
練習場所として
提供してみませんか？

障害者スポーツについて
「知る」ことから始めてみませんか？
体験会や講習会などの
相談も受け付けています。

コンシェルジュ専用電話

｜受付時間｜ 平日10時～17時（12時～13時を除く）

03-6265-6123

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
障害者スポーツコンシェルジュ担当
(Tokyo Sports Association for Persons with Disabilities)

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1　セントラルプラザ12階
[HP] https://tsad-portal.com/　[FAX] 03-5206-5587
※メールによるお問合せは当協会HPお問合せフォームよりお送りください。

障害者スポーツ基礎知識

～障害者スポーツの支援を始める前に～

障害者スポーツとは？

障害者のための特別なスポーツがあるわけではなく、競技規則や用具を一部変更し、改良することで安全にかつ公平に行うことができるよう、障害の状況に合わせて行っているスポーツを広く「障害者スポーツ」と捉えています。

どんな障害があるだろう？

- 身体障害
  - 肢体不自由
  - 視覚障害
  - 聴覚障害
  - 内部障害
- 知的障害
- 精神障害

主な大会について

国際大会ではパラリンピックやデフリンピック、グローバルゲーム、スペシャルオリンピックス世界大会等があります。国内のスポーツ大会としては全国障害者スポーツ大会、ジャパンパラ競技大会の他、競技団体が主催する大会等様々な大会があります。また、できるだけ公平な条件で競技が行えるように、大会により分け方の基準は異なりますが、障害の状態に応じて区分ごとに競技が行われます。

全国障害者スポーツ大会

全日本パラ・パワーリフティング選手権大会

スポーツ種目・用具について

例えばサッカーという一つの競技でも、ルールや用具の工夫で異なる障害があってもプレーできます。

©JBFA

ブラインドサッカー（視覚障害）

©JAFA

アンプティサッカー（肢体不自由）

©JPFA

電動車いすサッカー（肢体不自由）

障害者スポーツを支える人たち

障害のある方が、身近な地域でスポーツに親しむ環境を広げていくには、支える人たちの存在が欠かせません。特に重要な役割を担っているのが『障がい者スポーツ指導員』です。技術的な指導だけでなく、障害に関する専門的な知識を有し、障害のある方が安全にスポーツを楽しみ、心身の機能やスポーツ技術を向上していくためのサポート等を行います。また、資格を持っていなくてもボランティアとして大会やイベントを支えてくれる方々の存在もまた、障害のある方々のスポーツ振興にとってなくてはならない存在です。

休館日の活用で
パラアスリートを支援

施設貸出

企業

野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社
（スポーツクラブメガロス）

【業種＆事業内容等】
スポーツ施設の企画経営及びコンサルタント等

団体

東京ボッチャ協会

企業のニーズ・課題

都内の自社施設（スポーツクラブ）を障害者スポーツの練習に役立てたい。

団体のニーズ・課題

車いすを使用したまま利用できる施設が限られており、選手の練習場所が確保できない。

連携の成果

東京ボッチャ協会と野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社との間で施設利用協定を結び、東京アスリート認定選手、日本ボッチャ協会強化指定及び育成指定選手等を対象にスポーツクラブメガロス田端店を休館日に無償で練習場所として貸し出すことになった。現在東京ボッチャ協会の選手は施設を利用して技術の向上に励んでいる。

今後の展開　野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社は従来不十分であった練習環境を整備し、練習機会を創出することによって、選手のさらなる技術向上と競技の普及促進に貢献するとともに、今後もパラアスリートの総合的な支援を視野に入れ、他競技についても支援・受け入れ態勢の準備等を検討していく。

CASE 01

野村不動産ライフ＆スポーツ株式会社（スポーツクラブメガロス）　http://www.megalos.co.jp/corporate/
東京ボッチャ協会　https://tokyoboccia.wixsite.com/tokyo-boccia
スポーツクラブメガロス田端店　http://www.megalos.co.jp/tabata/

MEGALOS

マラソン大会を通じてボランティア交流

CASE 02

ボランティア

企業

プルデンシャル生命保険株式会社

【業種＆事業内容等】生命保険事業

団体

社会福祉法人東京都社会福祉協議会

企業のニーズ・課題

社会貢献のため、社員が年に一度ボランティアに参加する取組を継続的に実施

団体のニーズ・課題

「福祉マラソン大会」の運営を支えるボランティアが不足

連携の成果

2017年11月に荒川河川敷で行われた東京都社会福祉協議会主催の「心をつなげる福祉マラソン大会」にプルデンシャル生命保険株式会社 首都圏第四支社、首都圏第十支社の社員42名がボランティアとして運営に協力。

「心をつなげる福祉マラソン大会」は知的障害のある方やそのご家族等約300名が参加するマラソン大会で、第30回という節目を迎えるにあたり、今年度から知的障害のある方と一般社会との交流を深めることを目的として、企業ボランティアを募集した。

プルデンシャル生命保険株式会社は支社ごとに年に一度ボランティアに参加する取組を行っており、当日はコース整理や誘導等で運営に協力したほか、事前に障害者施設を見学するなど、障害のある方への理解を深める機会となった。

今後の展開 今回の連携を踏まえて今後も継続的に協力体制を築いていく。

プルデンシャル生命保険株式会社 http://www.prudential.co.jp/

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 https://www.tcsw.tvac.or.jp/

Prudential

東京都社会福祉協議会

昇降式表彰台 AwardLiftで、祝福の演出を

物品提供

1.
同じ目線から祝福

2.
リフトアップして
フォトセッションへ

片手に載るリモコンで
簡単操作

企 業

新東工業株式会社
株式会社メイキコウ

【業種＆事業内容等】
ものづくり支援設備システム（各種産業機械）、
シザーリフト事業　コンベアシステム事業　等

団 体

NPO法人日本パラ・パワーリフティング連盟

企業のニーズ・課題

自社グループの商品・技術を活用した
障害者スポーツの応援

団体のニーズ・課題

大会の観戦客増加に向けた取組検討
表彰式の活性化

連携の成果

車いすアスリートが順位毎の表彰台に乗りメダルを受けたあと、リフト機構で順位毎の高さまで上昇する「昇降式表彰台」を、日本パラ・パワーリフティング連盟に無償貸与。
2018年5月に開催された「第1回チャレンジカップ京都」表彰式で活用され、いつにも増して華やかで喜びいっぱいの笑顔と祝福の声があふれた。

CASE 03

今後の展開　各競技団体の開催予定大会での採用希望を歓迎
昇降機メーカーの強みを活かして障害者スポーツ大会を盛り上げていく。

新東工業株式会社　http://www.sinto.co.jp/
株式会社メイキコウ　http://www.meikikou.co.jp/
NPO法人日本パラ・パワーリフティング連盟　http://jppf.jp/

sinto　MEIKIKOU 株式会社メイキコウ　JPPF Japanese Para Powerlifting Federation

学内施設がパラリンピアンの練習拠点に

CASE 04

施設貸出

理解啓発

企 業

学校法人立教学院
【業種＆事業内容等】教育

団 体

一般社団法人日本パラ水泳連盟
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟

企業のニーズ・課題

障害者スポーツの支援、学生への障害者スポーツの理解啓発

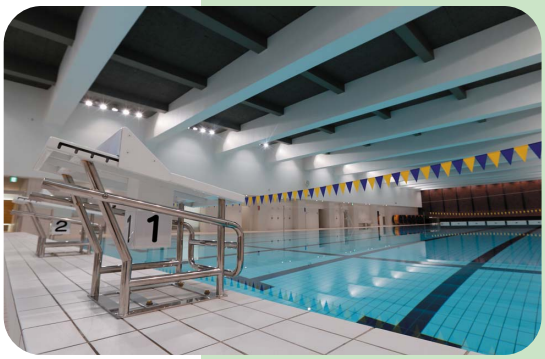
団体のニーズ・課題

練習場所の確保

連携の成果

学校法人立教学院は、2014年に一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟（現：一般社団法人日本パラ水泳連盟）と施設利用に関する覚書を締結し、池袋キャンパスの総合体育館「ポール・ラッシュ・アスレティックセンター」の室内温水プールを練習場所として提供している。2017年には一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟及び一般社団法人日本知的障害者水泳連盟と「連携協力に関する包括協定」を締結し、施設の貸し出しだけでなく、正課授業「2020年東京パラリンピック支援を考える」への講師派遣や学生を対象とした練習見学会を開催する等、様々な連携を進めている。なお、当施設は2017年にパラリンピック水泳競技のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設(夏季競技)にも指定されている（2018年も継続）。
2016年に開催されたリオデジャネイロ・パラリンピック水泳競技では、当施設で練習を行った選手の中から複数のメダリストが輩出された。東京2020大会で活躍が見込まれる選手たちが日々鍛錬をしている。

今後の展開 障害者スポーツ体験会の開催、「立教オリパラ応援団」に登録した学生に、イベントやボランティアの情報を提供するなど、障害者スポーツの理解啓発に関する様々な取組を行っていく。



学校法人立教学院 https://www.rikkyogakuin.jp/
一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟 http://welcome.paraswim.jp/
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 http://jsfpid.com/

立教学院 JPSF JSFP

月に一回定期的に体験会の場を提供

CASE 05

企業

株式会社オフィス24

【業種＆事業内容等】ネットワーク事業等

団体

一般社団法人日本パラバレーボール協会

体験会　協賛

企業のニーズ・課題

体験会の開催

団体のニーズ・課題

大会等への協賛

連携の成果

株式会社オフィス24（2020年4月より株式会社バルテックに社名変更）では、一般社団法人日本パラバレーボール協会のスポンサーとして、パラリンピック競技であるシッティングバレーボール日本代表選手団に対してサポートを積極的に行っており、年２回開催される同協会主催の全国大会に協賛している。

また、月に一度定期的に、シッティングバレーボール日本代表監督・選手等の協力を得ながら体験教室を開催することによって、競技の普及啓発活動に取り組んでいる。体験会は誰でも参加でき、ルール説明からパスやレシーブ等の基礎練習、ゲーム形式まで、パラリンピアンから直接指導を受けることができる貴重な機会を提供している。

その他にも、社内にシッティングバレーボールのオリジナルチームを持ち、全国大会に出場し競技者との交流を図る等、シッティングバレーボールの競技普及に対する幅広い支援活動を行っている。

今後の展開　シッティングバレーボールの競技普及に向けた支援活動を今後も広げていく。

株式会社オフィス24　https://www.webjapan.co.jp/
一般社団法人日本パラバレーボール協会　http://www.jsva.info/

職員・子どもたちへの理解啓発

協賛　アスリート雇用　体験会

企業

PwC Japanグループ

【業種＆事業内容等】
会計監査、アシュアランス、
コンサルティング、ディールアドバイザリー、
税務サービス、法務サービス

団体

一般社団法人
日本車いすバスケットボール連盟

企業のニーズ・課題

障害者雇用促進、
社内のダイバーシティ＆インクルージョン推進

団体のニーズ・課題

競技の普及啓発

連携の成果

PwC Japanグループは一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟のオフィシャルサポーターとなっており、車いすバスケットボールと電動車いすサッカーの選手を職員として雇用し、競技活動と職業生活の2つのキャリアを同時に進める「デュアルキャリア」を支援している。
障害者スポーツの普及啓発のために、都内及び関西の小中学校10校で選手による体験教室を開催し、2017年は約1,200人の小中学生が参加した。合わせて、職員・家族を対象にした体験会や車いすバスケットボールの大会ボランティアを通じて法人内のダイバーシティ＆インクルージョン推進に努めている。

CASE 06

今後の展開　今後は、特別支援学校や障害者職業能力開発校での車いすバスケットボール体験会にも注力していく。

PwC Japanグループ　https://www.pwc.com/jp/ja.html
一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟　https://jwbf.gr.jp/

pwc　JWBF Japan Wheelchair Basketball Federation

東京2020大会に向けた機運醸成

体験会

企業

学校法人藤村学園
東京女子体育大学・
東京女子体育短期大学
【業種＆事業内容等】教育

団体

各障害者スポーツ競技団体

企業のニーズ・課題

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、オリンピック・パラリンピック教育の推進や、大会機運の醸成を図る

団体のニーズ・課題

パラリンピック競技の普及・理解啓発

連携の成果

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、オリンピック・パラリンピック教育の推進や、大会機運の醸成を図ること等を目的とし、2014年4月に東京2020オリンピック・パラリンピックプロジェクトを発足。これまで、卓球、ボッチャ、ゴールボールなど様々なパラリンピック競技を学生や地域住民が体験することができる体験会を開催。各体験会には、パラリンピアンを講師として招き、参加者が競技を選手と共に楽しめる貴重な機会を提供するとともに、パラリンピック競技の理解啓発につなげている。

今後の展開 今後も継続的に様々な競技の体験会を実施していく。

CASE 07

CASE 08

ボッチャを起点に広がる企業活動

ボランティア　協賛

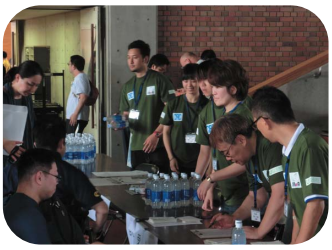
企業

株式会社CAC Holdings

【業種＆事業内容等】
企業向けＩＴサービス（金融・医薬等）

団体

一般社団法人
日本ボッチャ協会

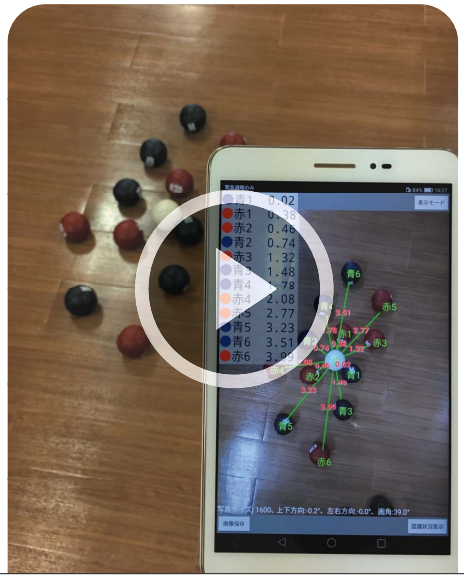


企業のニーズ・課題

障害者スポーツ支援、社員教育

団体のニーズ・課題

大会等の協賛支援、競技の普及



連携の成果

株式会社CAC Holdingsでは、ボッチャが誰もが知っているスポーツとなること、障害のある人がボッチャに参加できる機会を増大させることなどを目標としながら、ボッチャの普及・支援活動を行っている。

一般社団法人日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとして協会活動に対する支援のほか、審判員資格を持つグループ社員の国内大会への派遣、各地で行われるボッチャイベントのサポート、競技普及のためのPR活動、用具寄贈などを行っている。また、社員研修にボッチャを取り入れることで社員同士のコミュニケーション活性化に役立てたり、社員自らがボッチャを楽しむ機会を作るなどしている。2017年からは、都内の特別支援学校生徒を対象とした学校対抗のボッチャ交流大会「CACカップ」を社員の企画・運営で開催している。

また、CACグループの主要事業であるITを活用したボッチャ観戦環境の構築にも取り組んでおり、2016年12月にはボッチャボール間の距離を測定するAndroid アプリ「ボッチャメジャー（©2018 CAC Corporation、特許第6214746号）」を開発。2018年8月からは、Google Playで無料配信を開始した。ボッチャメジャーによって試合のスムーズな進行を支えるほか、試合の様子を観客に分かりやすく伝えている。

今後の展開　今後も資金面の支援だけでなく社員手ずからの支援を継続していきたい。またITを活用し、試合コートと観客席間の距離を埋め、大会を盛り上げられるようなツールを検討していく。

株式会社CAC Holdings　https://www.cac-holdings.com/
一般社団法人日本ボッチャ協会　https://japan-boccia.com/

障害者スポーツの支援をきっかけに障害者支援事業を立ち上げ

CASE 09

協賛　アスリート雇用　体験会

企業

堀江車輌電装株式会社

【業種＆事業内容等】
鉄道車両事業、障害者支援事業（職業紹介サービス・企業向けの障害者雇用コンサルティング・障害者スポーツサービス）、ビルメンテナンス事業

団体

特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

企業のニーズ・課題

障害のある人の力になりたい

団体のニーズ・課題

大会協賛、広報支援、遠征の補助　等

連携の成果

堀江車輌電装株式会社では、堀江社長が2010年に南アフリカで行われた、国際知的障がい者スポーツ連盟が主催するサッカー世界選手権大会に感銘を受けたことから障がい者サッカーを支援したいと考え、2013年から日本知的障がい者サッカー連盟のスポンサーとなり、広報・企画運営のサポートを開始した。スポーツブランドと連盟が共同制作した応援Tシャツの販売支援により海外遠征費の捻出、日本代表チームへの物品提供、連盟ホームページの制作など日本知的障がい者サッカー連盟を幅広く支援している。知的障がい者サッカー日本代表チームの支援をしていく中で、選手たちの雇用状況に課題を感じたことから、2015年に障がい者支援事業（トライアングル）を立ち上げる。就職を希望している障害者への職業紹介サービスや企業向けの障害者雇用コンサルティング、大学や行政、企業に障害者理解を促す目的とした障害者スポーツサービスを展開している。さらに、自社内での障害者雇用の枠を広げる施策として、2016年にはビルメンテナンス事業を開始し、積極的に障害者雇用を行い、付加価値の高い清掃サービスの提供を行っている。また、雇用する障害のある社員の中にはパラアスリート（知的障がい者サッカー日本代表）の選手もおり、会社としても積極的に障害者スポーツ選手の支援を行っているほか、東京都委託事業として車いすテニスなどの体験教室の開催や、車いすソフトボールの大会協賛、知的障害者バスケットボールやボッチャ教室などを各地で実施し、障害者スポーツ全体の普及にも力を入れている。

今後の展開　東京2020パラリンピックというイベントを控え、社会的気運が高まっている中、教育機関や行政、企業に障害者理解を促す目的とした障害者スポーツサービスをさらに展開し、パラリンピック日本代表選手とのスポーツ体験会や大学での障害者スポーツに関する講義の実施などを通じて、馴染みやすい方法で障害理解を促すことで、障害者に対する企業の感度を高めていく。

堀江車輌電装株式会社　http://horie-sharyo.co.jp/
障がい者支援事業部（トライアングル）　http://h-tryangle.jp/
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟　http://jffid.com/

堀江車輌電装株式会社　福祉を照らす。セカイが変わる。tryangle　JFFID 特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

企業野球チームと障害者野球チームによる交流

理解啓発

企 業

株式会社ゼンコー

【業種＆事業内容等】
交通誘導警備、施設警備　等

団 体

東京ブルーサンダース
（障害者野球チーム）

企業のニーズ・課題

自社チームの野球を通しての社会貢献や活動の場の開拓

団体のニーズ・課題

障害者野球の普及・理解啓発

CASE 10

連携の成果

ZENKOグループの女子硬式野球チーム「ZENKO BEAMS」の選手が障害者野球チーム「東京ブルーサンダース」の練習会に参加。BEAMSとしては、東京ブルーサンダースの選手のプレーから改めて野球というスポーツに対する気づきを与えられ、東京ブルーサンダースとしては障害者野球を知ってもらうきっかけとなった。また、キャッチボール、トスバッティング、シートノックなど同じ野球というスポーツを通じて、お互いに野球で全国の頂点を目指す者同志、相互理解を深める契機となった。

今後の展開　今後も継続的にお互いのチーム観戦や合同練習を実施し、交流を深めていく。

株式会社ゼンコー　http://www.kkzk.co.jp/
ZENKO BEAMS　http://zk-beams.com/
東京ブルーサンダース　http://www.bluethun.com/

地域での福祉教育を通じた競技の普及啓発

理解啓発

企 業

社会福祉法人荒川区社会福祉協議会

【業種＆事業内容等】
社会福祉

団 体

一般社団法人
日本障がい者立位テニス協会

企業のニーズ・課題

地域における福祉教育の普及、障害理解の啓発

団体のニーズ・課題

障がい者立位テニス競技の認知度向上

連携の成果

2018年8月に設立した一般社団法人日本障がい者立位テニス協会は、国内における競技の普及啓発・認知度向上のため、社会福祉法人荒川区社会福祉協議会と連携し、「障害者とスポーツ」の観点から区内の学校の人権教育・福祉教育の授業に講師派遣を行っている。
社会福祉法人荒川区社会福祉協議会では学校での講演や5月に行われた初の全日本大会である第1回全日本障がい者立位テニス選手権大会を視察。パラリンピック競技以外の多様な障害者スポーツを普及していくことも重要と考え、日本障がい者立位テニス協会とともに、2019年9月に立位テニスを題材とした講演「ユニーク・アイSpecial『立位テニス！進化する新しいパラスポーツ』」を実施。競技経験のある選手をゲストに、競技の紹介や義足の体験を行い、参加者の障害者スポーツへの理解を深めた。今後も定期的に障害者スポーツの普及に向けての取組を続けていく。

CASE 11

今後の展開 日本障がい者立位テニス協会では、学生や一般市民を対象とした講演などの活動を都内全域に拡大し、体験会・地区大会の実施やSNS等での広報活動を通じて、競技人口の拡大や支援者の拡大、設立間もない競技団体としての基盤の確立を進めていく。

社会福祉法人荒川区社会福祉協議会　http://www.arakawa-shakyo.or.jp/
一般社団法人日本障がい者立位テニス協会　https://www.jastatennis.com/

学生ボランティアを通じた大会運営支援

CASE 12

ボランティア

企業

学校法人成蹊学園 成蹊大学

【業種＆事業内容等】
教育

団体

東京都
グランドソフトボール連盟

企業のニーズ・課題

学生へのボランティア機会の創出、
障害者スポーツの理解啓発

団体のニーズ・課題

大会運営のサポート

連携の成果

学校法人成蹊学園 成蹊大学では地域・社会貢献活動を推進し、支援することを目的としてボランティア支援センターを設置し、学生のボランティア活動をサポートしている。2019年5月に実施された第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」のグランドソフトボール競技関東ブロック地区予選会において、東京都グランドソフトボール連盟へ学生ボランティアをコーディネートした。

学生ボランティアは、男女ソフトボール部が担い、開閉会式や試合進行の補助、場内アナウンスなどを通じて、大会の円滑な運営を支えた。学生たちにとっても達成感や充実感を得られたことはもちろん、日頃から練習に取り組む成果も活かしたボランティアに携わることができたことは貴重な体験となり、ボランティアを通じた教育的成果も得られた。

今後の展開 グランドソフトボール競技を含む障害者スポーツの大会や関連イベント等のボランティアニーズに対して、適切なコーディネート等の支援を続けることで障害者スポーツへの理解促進を図る。

学校法人成蹊学園 成蹊大学 https://www.seikei.ac.jp/university/
ボランティア支援センター https://www.seikei.ac.jp/university/volunteer/
グランドソフトボール http://www.aj-gsb.com/content1.html

地元（大田区）企業の技術力を活かした障害者スポーツ用具の開発

製品開発

企業

公益財団法人大田区産業振興協会
区内中小企業群
【業種＆事業内容等】区内産業振興

団体

各種障害者スポーツ団体・アスリート

企業のニーズ・課題

製品開発力の強化、イノベーションの創出、
新産業分野への進出、障害者スポーツの支援

団体のニーズ・課題

各競技用具の品質向上によるパフォーマンスの向上

連携の成果

障害者スポーツでは、車いすをはじめとする用具や器具等の製品が使用され、各競技者の障害や体格に合わせた製品開発が必要となる。（公財）大田区産業振興協会では、大田区からの委託を受けて、平成29年（2017年）度から「大田区障がい者スポーツ用具製品開発事業」を実施している。区内中小企業群と車いすメーカーである㈱松永製作所との製品開発を進めながら、事業の進捗管理やコーディネーターによる技術的な調整役を担う。バスケットボール用車いすの開発では、「NO EXCUSE」チームの協力のもと、従来の車いすより軽量化と剛性を確保した「B-MAX made in Ota Tokyo Model」を開発した（キャスター、クランプ含む）。また、テニス用車いすの開発では、パラアスリートの協力のもと、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）を用いて軽量かつ高い強度と剛性を保有させ、男女問わず幅広い競技者を対象とした車いすの開発を行った。それぞれの車いす開発に携わることで、区内企業の製品開発力の強化やイノベーションの創出等につながった。

NO EXCUSEチームとの連携（H30年3月31日撮影）

今後の展開 これまでの事業成果や経験を活かし、障害者スポーツを含めたスポーツ産業全体の課題解決を図る。また、より幅広いライフサイエンス・ヘルスケア分野への進出を伴走支援するとともに、大田区の地域力をプロモーションしていく。

炭素繊維強化プラスチックによるテニス用車いす

バスケットボール用車いすのキャスターとクランプ

CASE 13

公益財団法人大田区産業振興協会 https://www.pio-ota.jp/
大田区障がい者スポーツ用具製品開発事業一覧 https://www.pio-ota.jp/tokusyu/2020/08/19/efd34fd0f5bf454e1372241359bb24ffaf4633ed.pdf
NO EXCUSE http://noexcuse.jp
PARA☆DO/（事業紹介動画） https://www.youtube.com/watch?v=JggTZpSjRMQ

公益財団法人 大田区産業振興協会

アプリを活用した練習機会の創出

CASE 14

製品開発　物品提供

企業

ソフトバンク株式会社

【業種＆事業内容等】
通信サービス

団体

特定非営利活動法人
日本デフバスケットボール協会
全日本ろう者空手道連盟

企業のニーズ・課題

障害者スポーツの支援、製品の性能向上、活用事例の創出

団体のニーズ・課題

練習効率の向上、練習機会の増加

連携の成果

ソフトバンク株式会社では、本業であるICTを通じてスポーツの発展や障害者の支援を目的に、スマートフォンやタブレット等で元プロスポーツ選手やアスリートなど知識や経験が豊富な専門コーチからオンラインでプライベートレッスンを受けることができる動画指導アプリ「スマートコーチ」の動画指導システムを、特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会（2019年）および全日本ろう者空手道連盟（2020年）へ無償提供している。日本デフバスケットボール協会は「第5回デフバスケットボール世界選手権（2019年6月開催）」に向けて、スマートコーチを用いたオンラインレッスンを行い日本代表チームの強化を行った。全日本ろう者空手道連盟では、手話などの適正なコミュニケーションができる指導者が少なく、練習機会が限られてしまうことから練習機会の創出のために試験的に導入している。ソフトバンク株式会社では、試験導入を通じて、時間や場所、コミュニケーション手段の制約を超えた継続的なスポーツ指導ツールの確立を目指す。また、スマートコーチの無償提供だけでなく、同社で勤務するパラアスリートを中心に、社内外での障害者スポーツの理解啓発やCSR活動を広く実施している。

今後の展開　より多くの障害者スポーツ競技で活用ができるよう試験導入を踏まえた機能等の向上を行い、障害者スポーツの支援を続けていく。

ソフトバンク株式会社　https://www.softbank.jp/
特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会　https://jdba.sakura.ne.jp/
全日本ろう者空手道連盟　http://jdkf.jp/

パラリング
～VR動画を用いたパラスポーツ体験と障害者理解の促進～

CASE 15

理解啓発　アスリート雇用　物品提供

パラスポーツ体験VR動画ダイジェスト版

企業

株式会社リクルート

【業種＆事業内容等】
情報サービス業

団体

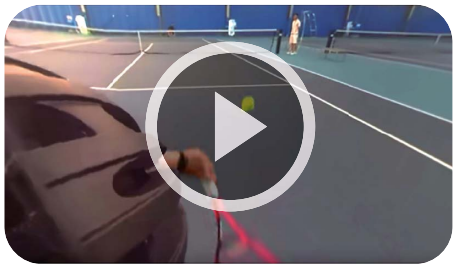
各種パラスポーツ
競技団体・アスリート

企業のニーズ・課題

障害理解促進による共生社会の実現、パラスポーツおよびパラアスリートの支援、ほか

団体のニーズ・課題

競技の認知度向上、競技の普及


パラスポーツ体験VR動画（車いすテニス）

パラスポーツ体験VR動画（卓球）

連携の成果

株式会社リクルートでは、障害者理解を広めることを目指す「パラリング」活動を実施し、その一環としてパラアスリートの支援をはじめとしたパラスポーツの支援を積極的に行っている。パラリングでは、自社で雇用しているパラアスリートや各種パラスポーツ競技団体等の協力のもと、『パラスポーツ体験VR（360°）動画』を作成。VR動画の一般公開とともに自治体やNPO団体等が開催するパラスポーツ体験会イベントで簡易のVRスコープの無償提供を行うことで、パラスポーツの疑似体験を通じたパラスポーツ競技の普及や障害者理解の促進に努めている。

今後の展開　今後も新たなパラスポーツの体験VR動画を追加制作するとともに、共生社会の実現に向け、学校向けサービス『スタディサプリ』を通じ、パラスポーツ体験動画を用いた障害者理解のためのオンライン学習コンテンツの提供を開始。新しい学びの場の提供やきっかけづくりに活用の幅を広げていく。

VR動画を一般公開しているパラスポーツ一覧（2021年8月現在）

柔道	卓球	射撃	陸上競技
車いすテニス	車いすバスケットボール	シッティングバレーボール	馬術
ボート	車いすフェンシング	パラパワーリフティング	水泳
ボッチャ	バドミントン	カヌー	テコンドー

▶最新の公開状況はこちら

株式会社リクルート　https://www.recruit.co.jp/
▼パラリング特設サイトはこちら
▼パラスポーツ体験VR動画ページはこちら

RECRUIT　パラリング Para Ring

大会・練習会場における歩行誘導マットの活用

CASE 16

協賛　物品提供

企業

錦城護謨株式会社

【業種＆事業内容等】
工業用ゴム・樹脂製品の製造・販売、
視覚障害者歩行誘導マットの製造・販売・施工　等

団体

一般社団法人
日本ゴールボール協会　ほか

企業のニーズ・課題

自社製品を通じた
障害者スポーツの支援

団体のニーズ・課題

大会、練習会場における利便性の向上

2018福井しあわせ元気大会サウンドテーブルテニス会場

2017年日本身体障害者水泳選手権

連携の成果

錦城護謨株式会社はブラインドテニス、フロアバレーボール、車いすテニス、パラ水泳の大会会場等に、視覚障害者歩行誘導ソフトマット「歩導くん ガイドウェイ」を提供し、選手がより試合に集中できる環境づくりを支援している。全国障害者スポーツ大会のサウンドテーブルテニス競技においても会場の既存で設置されている点字ブロックから誘導路を延伸させたり、案内文字をマット上に表示することで床面サインとして用いたりすることで、大会をサポートしている。
また、さらなる視覚障害者スポーツへの支援を目指して、2020年11月に実施された「企業×障害者スポーツ競技団体等の交流会2020」での交流をきっかけに、2021年4月に一般社団法人日本ゴールボール協会とオフィシャルサプライヤー契約を締結。今後大会や体験会等のイベントでの誘導マットの敷設を通して、会場の利便性の確保や競技の理解啓発に協力をしていく。

©JapanGoalBallAssociation

今後の展開　視覚障害者の移動サポートを行うとともに、すべての方々のための道しるべとして今後も各種障害者スポーツ大会に誘導路を提供するとともに設置・協力を継続的に行っていく。また、SNSを通じて社内外に障害者スポーツの魅力を情報展開する。

錦城護謨株式会社
一般社団法人日本ゴールボール協会

http://www.kinjogomu.jp/
http://www.jgba.jp/

錦城護謨株式会社
KINJO RUBBER CO.,LTD.

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会